

第 73 回国民体育大会「福井しあわせ元気国体 2018」セーリング競技会 天皇杯は山口県、皇后杯は開催県の福井県が獲得

第 73 回国民体育大会「福井しあわせ元気国体 2018」セーリング競技会は福井県高浜町の「若狭和田マリーナ特設セーリング会場」で開催され、天皇杯（男女総合優勝）は 2 年ぶり 10 回目の山口県が、皇后杯（女子総合優勝）は開催県の福井県が初めて獲得した。

今大会は猛烈な台風 24 号が大会初日の 9 月 30 日に福井県に接近する予想だったため、計測前日の 9 月 27 日の時点で大幅な日程変更を決定し、急遽 27 日から計測を開始することとした。28 日は引き続き計測と 29 日に予定されていた監督会議を繰り上げて開催した。29 日は予定していたトライアルレースと開始式を中止したうえで、朝から台風対策のため運営艇の移動やテントの撤去などを行い、大会初日の 30 日は全てのレースを 2 日目以降に延期し台風に対応した。

大きな被害もなく台風が通過した後の大会 2 日目の 10 月 1 日は実行委員会、競技役員、監督、選手が一体となって早朝からレースの実施に向けた準備を行った。レースを実施するに当たって、レース委員会は遅れた日程を取り戻すために同一艇種の男女を同時にスタートさせる案を示したが、ブリーフィングにおいてレース委員会と監督・選手が話し合いを行った結果、選手からの希望が多かった当初どおりの男女別でのスタートで行うことになり、午後から 16 レースを実施した。

大会 3 日目の 2 日は朝から風に恵まれ順調に 25 レースを実施することができ、この日でレースが終了する男子種目と国体 WS 級の 6 種目は 4 または 5 レースが成立した。

大会最終日の 10 月 3 日は朝からの微風の中で出艇し海上で風待ちをしたが、安定した風が吹かなかったためレースは中止された。

今国体は台風の影響で大幅な日程変更を余儀なくされたが、早め早めに判断し大会関係者に周知するとともに万全な対策を行った大会実行委員会をはじめ、大会関係者が一体となって少しでも多くのレースの実施を目指した結果、3 日間で 41 レースを実施することが出来た。

しかし、非常に残念であるが、国体期間中に運営艇（プレジャーボート）に報道艇（漁船）が衝突し、競技役員が負傷するとともに運営艇が沈没するという、これまでの国体で前例のない重大な事故が発生した。この衝突事故に関しては、日本スポーツ協会の聞き取り調査に加えて、海上保安庁、国土交通省中部運輸局、運輸安全委員会の調査が現在も続いているが、今後、運営艇の安全運航に関して万全な体制を再確認する必要があると感じている。なお、今国体では報道艇に漁船を使用していたが、漁船を運営艇として使用する場合には目的外使用になることがあるため、今後は国体だけでなく各種大会における漁船の使用には注意が必要です。

今国体では大会ホームページによるリアルタイムな情報提供のほか、観覧席の設置、観覧艇の運航、レース風景の大型ビジョンでの放映、トラッキングシステムなどセーリング関係者だけでなく会場に来場した観客にも「見える」、「見せる」ことに積極的に取り組んでいた。

今国体でも地元ボランティア団体による郷土料理のおもてなしがあり、また多くの町民の観戦もあるなど心温まる素晴らしい大会でした。長年にわたり大会の準備にご尽力いただきました高浜町実行委員会及び福井県セーリング連盟、大会運営にご協力いただきました海上自衛隊舞鶴警備隊、若狭高浜漁業協同組合、若狭和田漁家組合、若狭和田マリナーオーナー会、地元ボランティア団体など関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。(レポート／JSAF 国体委員会副委員長・黒川重男)



天皇杯（男女総合優勝）を獲得した山口県



台風一過、絶好のコンディションでのレース（A海面）



レース風景（成年男子 470 級）



台風対策のためテントを撤去した式典会場（10月29日）